

劇場公開記念 特別ワークショップ

パオロ・
タヴィアーニ
監督作品
『遺灰は語る』

2023
6/13 tue.

東洋大学白山キャンパス
井上円了ホール

17:45 開場 18:15 開始

Lecturers:

磯尚太郎

(ムヴィオラ / 『遺灰は語る』字幕翻訳)

土肥秀行

(東京大学 / イタリア現代文学)

栗原俊秀

(イタリア文学・翻訳家)

と イタリア



6月23日よりロードショー



※学外の方は事前登録が必要です！

左記 QR コードより登録を行い、当日入場証をご提示ください。

主催 人間文化研究機構グローバル地域研究推進事業

東洋大学アジア文化研究所グローバル地中海地域研究拠点

NIHU Global Area Studies Program: The Global Mediterranean

at Asian Cultures Research Institute, Toyo University

協力 ムヴィオラ / Moviola ©Umberto Montiroli



グローバル地域研究プログラム
NIHU Global Area Studies Program



グローバル地中海地域研究
Global Mediterranean



TOYO UNIVERSITY

劇場公開記念 特別ワークショップ

パオロ・タヴィアーニ 監督作品『遺灰は語る』とイタリア



2023.6.13^{Tue}

東洋大学白山キャンパス井上円了ホール

世 界的に知られるイタリアの映画監督タヴィアーニ兄弟。『遺灰は語る』は、兄ヴィットリオ亡きあと、弟パオロ（現在91歳）が、初めてひとりで監督として作り上げた作品である。

イタリア現代史を背景としたこの作品は、イタリアが誇るノーベル賞作家ピランデッロの遺灰がローマから故郷シチリア島に帰還するまでの旅を描く。映像は彼の遺作小説をエピソードとして描き、美しくも時に悲しみをたたえている。

本ワークショップでは、この作品を軸にして、表象としての地中海についての理解を深める。イタリアの置かれた地理的環境、文学と映画、今日国際社会で問題となっている地中海を超えてヨーロッパを目指す難民の問題にまで視野を広げて、多様な視点から地中海を見つめる。

講演 / Lectures

磯尚太郎（ムヴィオラ / 『遺灰は語る』字幕翻訳）

「『遺灰は語る』—— 作品解説」

土肥秀行（東京大学 / イタリア現代文学）

「タヴィアーニ兄弟における
シチリアとトスカーナの記憶」

栗原俊秀（イタリア文学・翻訳家）

「地中海における移民・難民の表象について
—— イタリアの視点から」

※本ワークショップでは映画の上映はありません。映像の一部のみを使用します。

会場 / Venue

東洋大学白山キャンパス井上円了ホール
〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20(5号館地下2階)
三田線「白山駅」A3出口から徒歩5分 / 南北線「本駒込駅」1番出口から徒歩5分



監督・脚本 / Paolo Taviani

パオロ・タヴィアーニ

1931年11月8日、北イタリアのトスカーナ地方、サン・ミニアート生まれ。1929年9月20日生まれ。兄ヴィットリオとともに幼い頃から音楽に親しむ。1977年、兄とふたりで監督した『父／パードレ・パドロネ』がカンヌ国際映画祭で最高賞のパルムドールと国際批評家大賞をダブル受賞し、国際的な評価を獲得。1982年には、『サン★ロレンツォの夜』で同映画祭の審査員特別グランプリを受賞。その後も秀作を発表しつづけて、2012年の『塙の中のジュリアス・シーザー』はベルリン国際映画祭で金熊賞を受賞。2018年4月、兄ヴィットリオが88歳で死去。本作が、兄の死後初めて、パオロが一人の名前で発表した作品となる。



あらすじ / Story

映画の主人公は、1936年に亡くなったノーベル賞作家ピランデッロの“遺灰”である。死に際し、「遺灰は故郷シチリアに」と遺言を残すが、時の独裁者ムッソリーニは、作家の遺灰をローマから手放さなかった。戦後、ようやく彼の遺灰が、故郷へ帰還することに。ところが、アメリカ軍の飛行機には搭乗拒否されるわ、はたまた遺灰が入った壺が忽然と消えるわ、次々にトラブルが…。遺灰はシチリアにたどり着けるのだろうか——？！

6月23日よりヒューマンラストシネマ有楽町、新宿武蔵野館ほか全国順次公開!